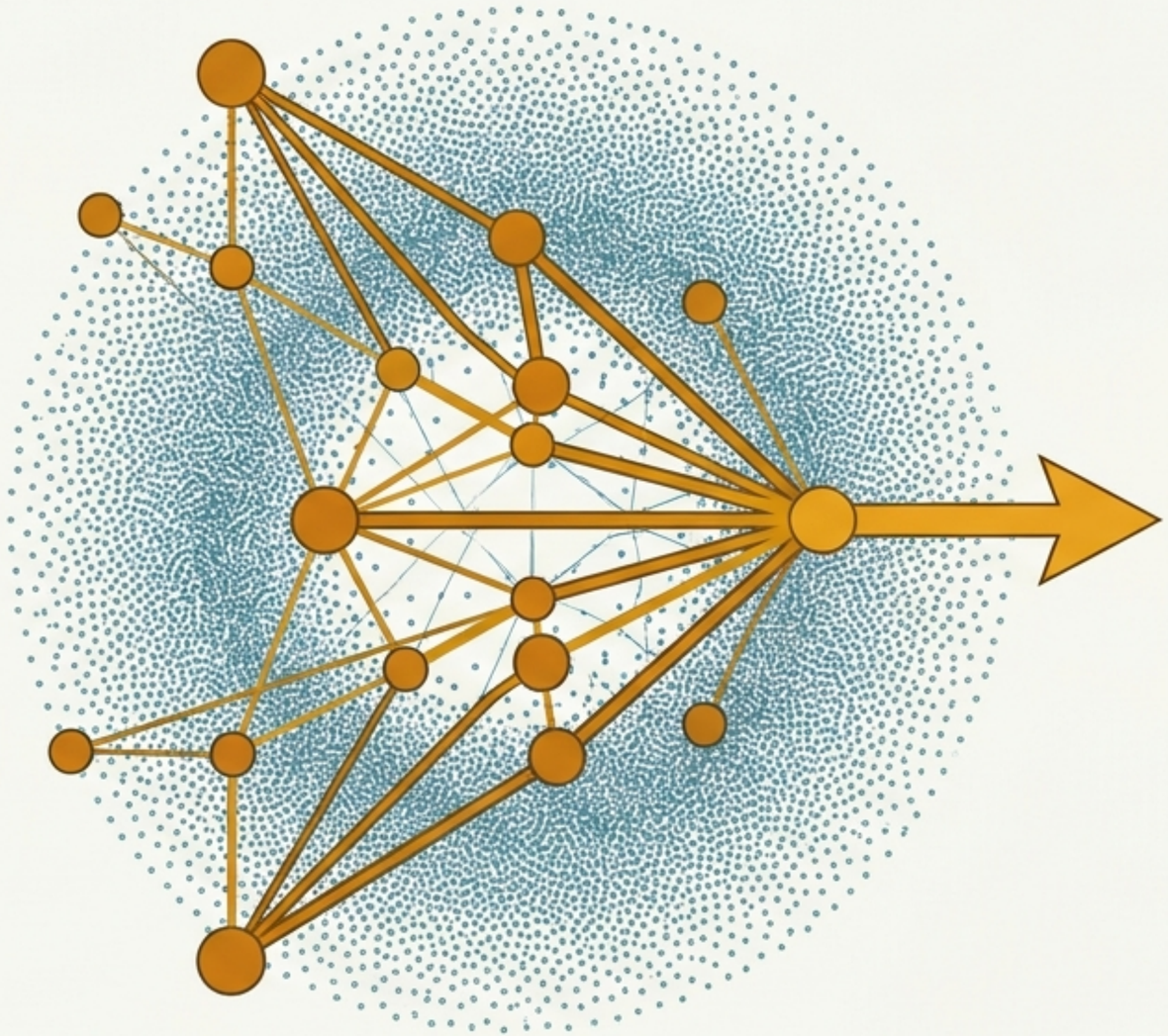
網と槍：ソフトバンクグループ生成AI特許「大量出願」の真の狙い

圧倒的な出願数と1.2%の登録率に隠された知財戦略の解剖（2026年11月最新データに基づくエグゼクティブ・ブリーフィング）



[Date] 2026年11月
[Target] SoftBank Group Corp. (SBG)
[Classification] Strategic Intelligence

Gemini Notebook

WIPO世界第1位

生成AI特許ファミリー数（2,985件）。2025年・2026年連続で国内出願公開数トップ（2位トヨタの4倍超）。

登録率 1.2%

3.4万件超の公開に対し、特許登録は約415件。大半が意図的な「審査請求前」の保留状態。

「網と槍」のデュアル戦略

大量出願による他社の権利化阻止（網）と、重要案件の早期審査・外国出願（槍）の並行実行。

収益化への布石

2026年4月の定款変更で「特許権」を明記。選別されたAI知財群の米国展開とライセンス戦略が本格化。

Gemini Notebook

グローバルでの圧倒的プレゼンス

生成AI特許ファミリー数「2,985件」（2014-2025年）。世界の生成AI特許動向における「最大の保有者」(WIPO 2026年7月報告）。

極端に少ない実際の「権利」

2024年～2026年10月の累計特許登録数は「約415件」。公開済み出願約3.4万件に対する登録率はわずか「約1.2%」。



極端に少ない実際の「権利」

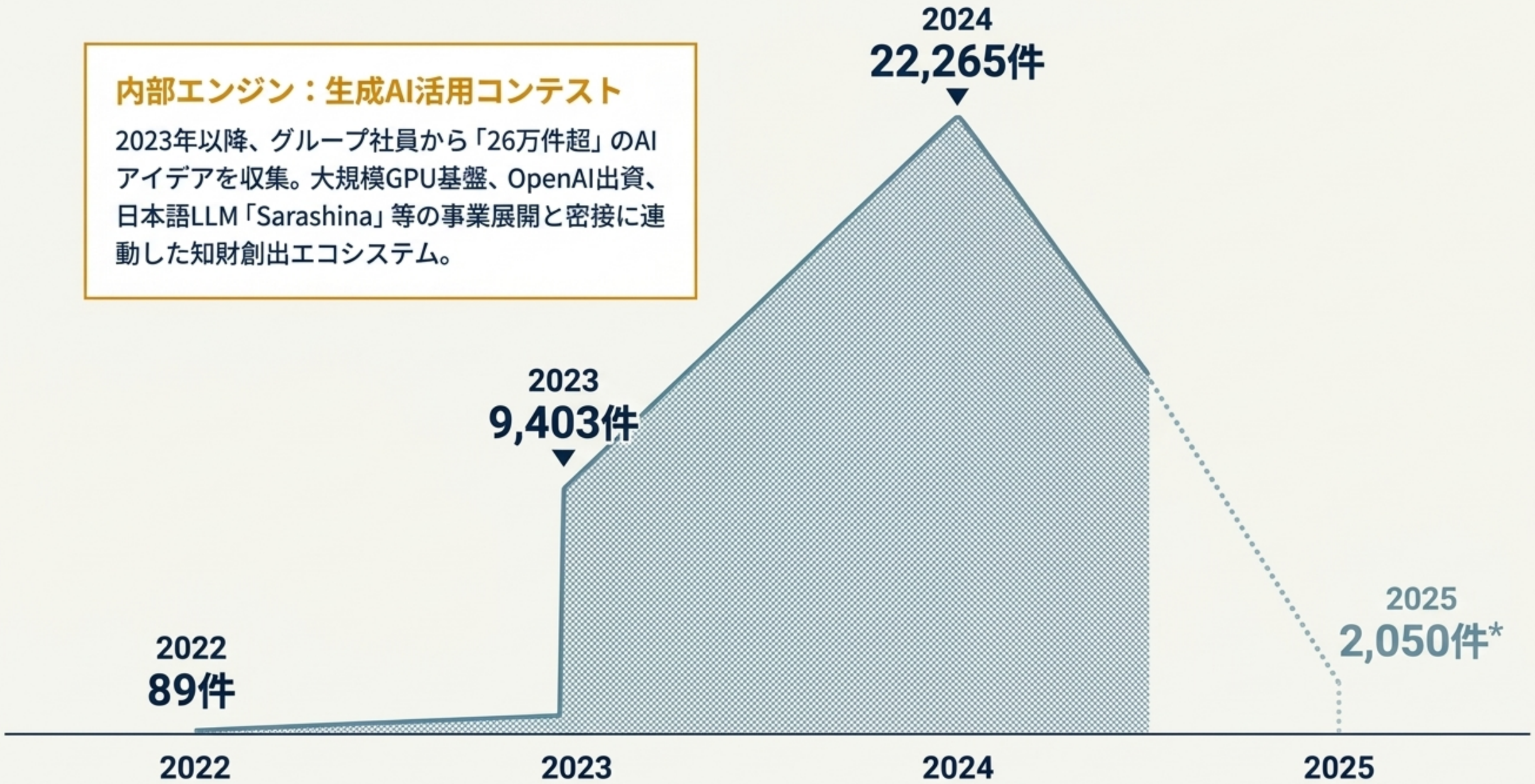
2024年～2026年10月の累計特許登録数は「約415件」。公開済み出願約3.4万件に対する登録率はわずか「約1.2%」。

世界最大のAI特許出願企業は、なぜ自ら「権利化」を行わないのか？

Gemini Notebook

内部エンジン：生成AI活用コンテスト

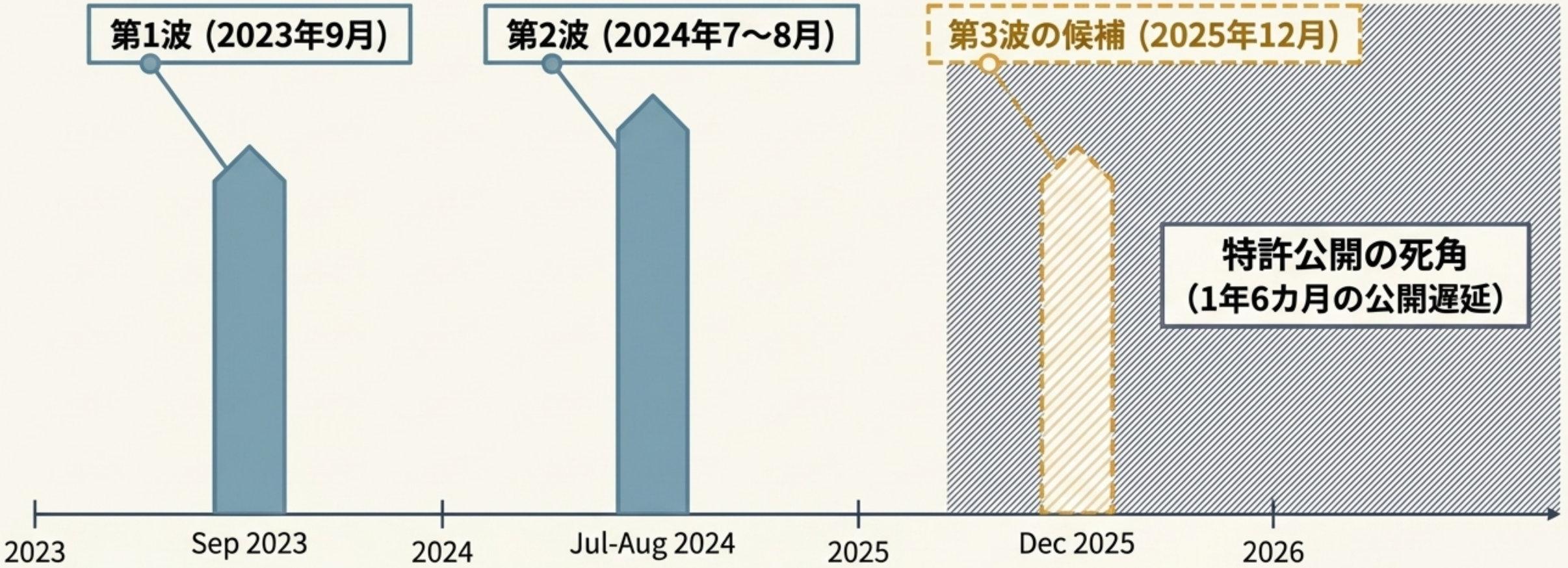
2023年以降、グループ社員から「26万件超」のAIアイデアを収集。大規模GPU基盤、OpenAI出資、日本語LLM「Sarashina」等の事業展開と密接に連動した知財創出エコシステム。



*大部分は1年6カ月の公開遅れにより未公開

Gemini Notebook

特許公開の「巨大津波」：時系列分析 (2023-2026)



計**9,989件**。発明者**6,850名**。2025年4月2日・3日のわずか2日間で約**3,500件**が一斉公開。

計**11,933件**（7月: 2,512件 / 8月: 9,421件)。特許庁が「特定企業による大量出願」として警戒を報告。

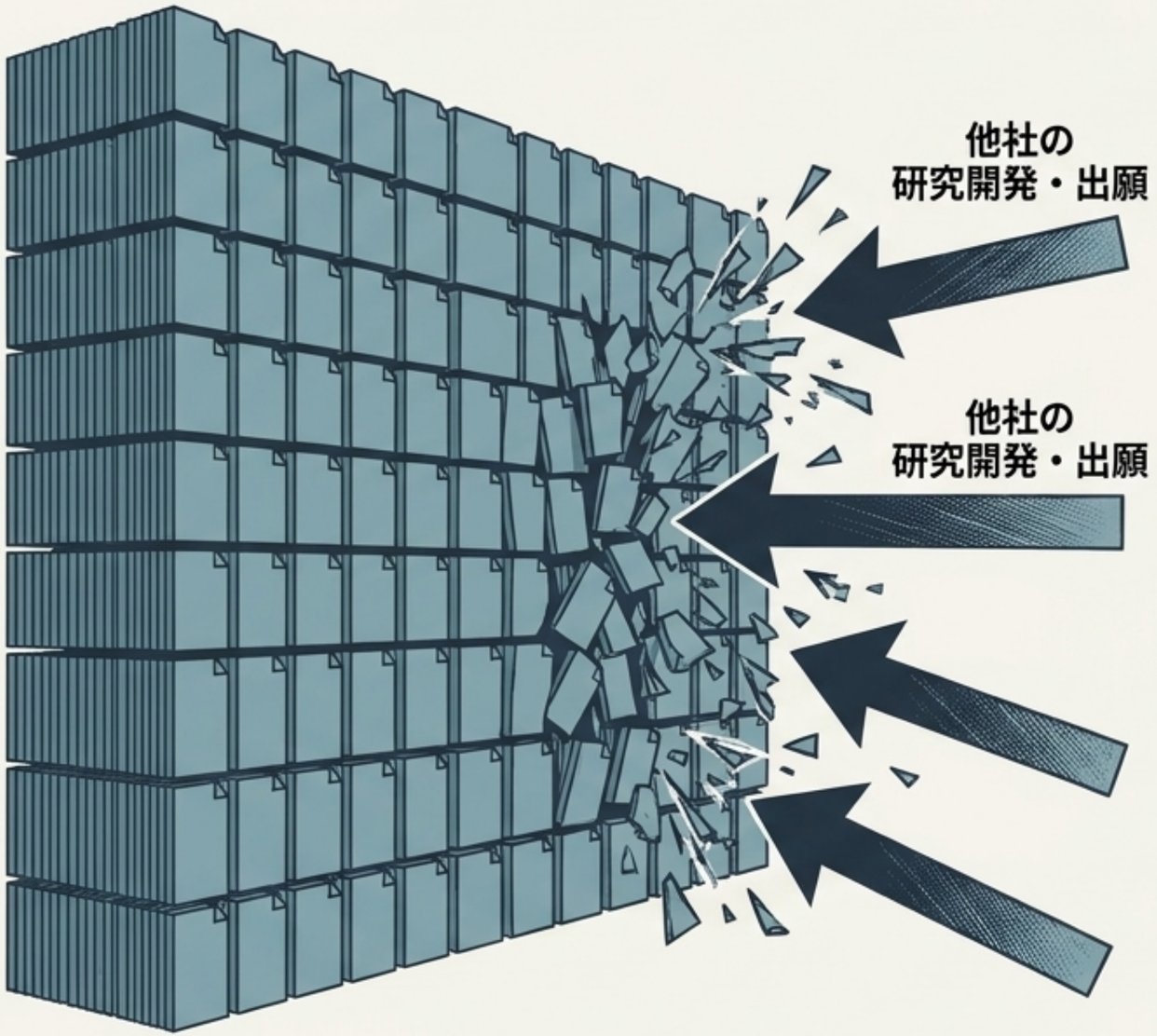
国内全体の単月出願数が前年同月比**+168.9%** (82,188件）と異常な急増。出願人未確認だがSBGの可能性大（2027年夏公開予定)。

Gemini Notebook

「網」の戦略：防衛的ドミナンスによる先行技術化

特許法上、出願から1年6カ月で内容は強制的に「公開公報」となる。

権利化（登録）されなくても、公開された時点で「公知技術」として確定する。

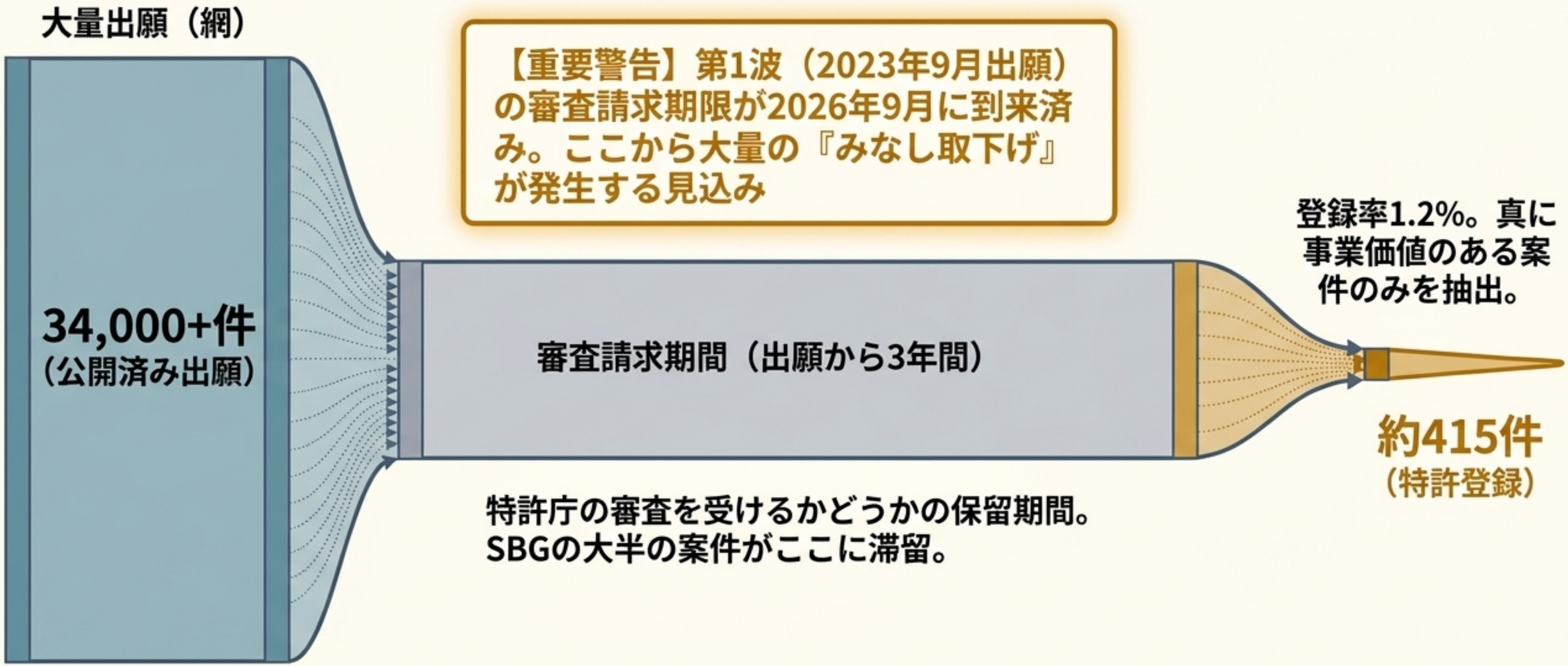


新規性・進歩性の破壊:
SBGの膨大な公開公報が「先行技術」となり、他社の生成AI応用特許の成立を広範囲に阻止する。

探索コストの増大:
他社はAIを用いた業務・サービスを出願する際、SBGの公報群を回避するための膨大な調査コストを強いられる。

Gemini Notebook

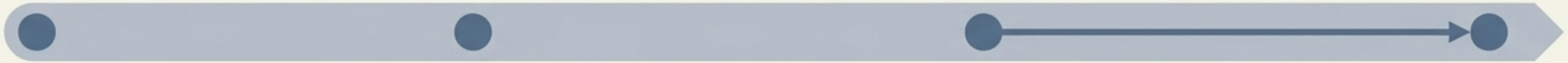
『網』の戦略：大量出願の選別と登録（2023-2026）



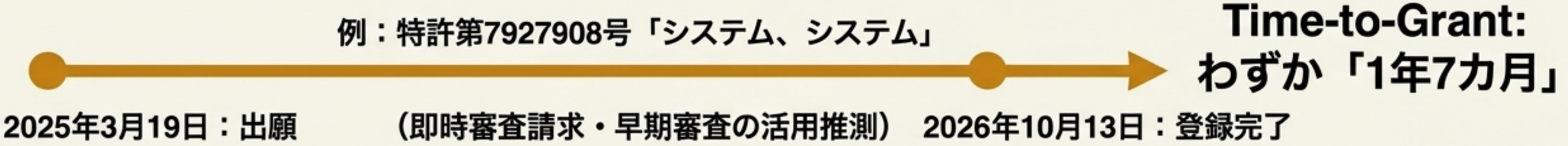
Gemini Notebook

「槍」の戦略：重要案件の選別と超早期権利化

標準的なプロセス（Standard Path）



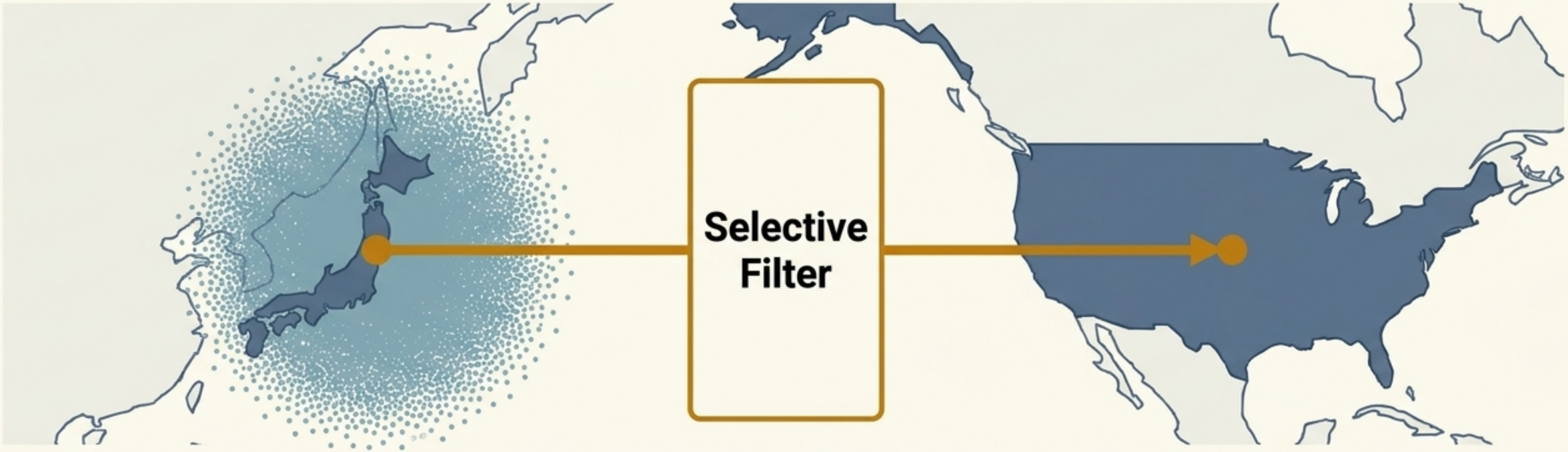
「槍」の戦略：超早期権利化



網を広げる一方で、事業上コアとなる知財群については審査請求期限を待たず、
特急レーンで強力な独占権（槍）を形成している。

Gemini Notebook

グローバル展開：パリ条約を活用した米国への「槍」の投射



2026年3月に複数の生成AI関連特許を米国出願し、わずか6カ月後（2026年9月）に米国で公開（例：US 2026/0289441）。

早期公開の理由：2025年3月頃の国内出願（前スライドの早期権利化案件と同時期）を基礎とする「パリ条約上の優先権主張出願」と推測。

孫正義氏を発明者とする「車両の速度制御関連」の米国出願も2025年7月に公開。

戦略的結論：WIPOの件数は国内中心（IPFは全体の約9%）に見えるが、裏では選別された最重要IPが米国市場へ精確にデプロイされている。

Gemini Notebook

比較マトリクス：旧来の知財パラダイム vs SBG「生成AI」モデル

	従来型（Traditional）	SBG型（The SBG Model）
アイデア創出	R&D部門や特定の発明者による限定的創出	26万人規模の全社コンテストによる圧倒的クラウドソーシング
出願ボリューム	年間数十〜数百件の厳選出願	年間1万〜2万件規模の波状・絨毯爆撃出願
主たる目的	自社製品の保護、ライセンス収入（独占排他権）	先行技術化による他社R&Dの広域ブロック（網）+厳選案件の権利化（槍）
審査請求アプローチ	原則として全件審査請求を前提	デフォルトは「みなし取下げ」前提。1%強のコア案件のみ特急審査

Gemini Notebook

コーポレート・インテント：収益化フェーズへの移行

2026年4月28日発表「定款第2条（目的）の変変更」（2026年6月24日効力発生）

追加項目: 「特許権」の取得・運用、AIを活用したサービス、半導体、ロボティクス、データセンター。

これまでは知財インフラの「構築（網）」フェーズ。

定款に「特許権」を明記したことは、大量保有する特許群（槍）を利用した将来のライセンス事業や訴訟対応など、明確な「活用・収益化」フェーズへの移行を宣言する布石である。

Gemini Notebook

フューチャー・ウォッチ＆競合他社向けアクションプラン



Ongoing
パリ条約ルートを経由した米国でのSBG優先権主張特許の公開動向。

Jul-Aug 2027
第2波（約1.2万件）の審査請求期限。ここでの登録/取下げ比率がSBGのAI特許維持コストの許容度を示す。

Mid 2027
2025年12月の「第3波候補（8.2万件増）」の出願人公開。SBGのAI戦略が継続しているかの最終試金石。

[!] 生成AI応用サービスの出願前には、必ずSBGの未審査公開公報を**「最重要・先行技術」**としてノイズクリアリング（無効資料調査）に組み込むこと。

[!] **SBGの米国展開特許（槍）**の権利範囲を継続的にモニタリングし、自社グローバル事業との抵触リスクを早期排除すること。

Gemini Notebook